

患者様各位

当院外来維持血液透析患者における絶対的鉄欠乏パラメーターと血算の関連調査と カットオフ値の検討に関するお知らせ

研究の背景

最近では、腎性貧血治療を赤血球(RBC)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)に分けて行うことで安定したHbコントロールができると言われている。その中で、RBCをESA製剤で、MCHを鉄剤投与で行い腎性貧血治療を行うことを提唱されている。しかし、ガイドライン上では鉄剤投与の基準はTSAT、フェリチンで評価することが推奨され、ガイドライン上での基準では、Hbサイクリングを起こすことが問題とされている。

研究の目的

現在の血液透析患者の腎性貧血治療はHb目標値に対してESA製剤・鉄剤投与を行いコントロールしているが現在のESA製剤・鉄剤の投与基準では、Hbサイクリングを起こすことが問題である。鉄欠乏貧血の指標であるTSAT、フェリチンは炎症反応や肝疾患などの影響や頻回採血が行えない。当院外来維持透析患者の調査を行い、TSAT、フェリチン以外での鉄欠乏の評価を検討し、カットオフ値を示すことで今後の腎性貧血治療をより強化していくことを目的とする。

利用する者（被検者）の範囲と研究期間

対象者：当院通院中の外来維持血液透析患者
期 間：2019年2月

研究に際し行うこと

対象患者の診療録、検査値を後方視的に観察する

研究に伴う患者様の負担・不利益

通常の診療を行うだけなので、研究のための患者様の金銭的負担は一切ありません。また研究のための検査や投薬は一切行いません。研究を行うことで生ずる副作用等の増加はありません。

患者様の人権擁護

患者様およびそのデータは、個人が判別出来ないよう処理します。またこの研究のために収集したデータは、この研究以外の目的には使用されることはありません。

御不明な点は、右記までお尋ねください。
皆様の御協力に感謝致します。

連絡先
社会医療法人友愛会豊見城中央病院
薬剤科 平識 善彦
電話:(代表)098-850-3811